

小学校低学年の取り出しによる 算数科と日本語の統合学習

～視覚と体験を活用した実践事例～

2020.8.2

浜松市外国人教科指導員

川合 あゆみ

今年度 指導状況

取り出し時間数 10時間

取り出し教科 算数

指導児童 小学2年生～6年生 9名

児童国籍 ブラジル フィリピン 中国 ペルー

実践事例

単元名「水のかさ」(2年生)～1ミリリットルってどれくらい?～

【対象児童】 フィリピン 男児1名(日本生まれ)

【取り出し時間数】 週1回

【児童の実態】

日本語の力

・・・日常会話は困ることはないが文を読んだり書いたりするのが苦手である。

算数の力

・・・足し算や引き算は指を使ってできるが、算数用語がなかなか身につかず、定着しない。問題文は文の拾い読みはできるが、内容を理解するのは難しい。

実践事例

単元名「水のかさ」(2年生)～1ミリリットルってどれくらい?～

本時のめあて

【まとめ】

1L=1000mL

1dL=100mL

が説明できる

教科の目標 1dLより小さい単位1mLを理解する。

日本語の目標 「～は・・・と同じです。」
「～は・・・より多いです、少ないです。」
の文型にあてはめて水のかさの説明ができる。

授業の流れ

1. 前時の学習の復習(1L,1dL)
2. 本時の学習とめあてを理解する。
3. 1dLより小さい単位mLを知る。
4. **1mLの量はどれくらいか考える。**
5. まとめと練習問題をする。

実践事例

単元名「水のかさ」(2年生)～1ミリリットルってどれくらい?～

教材と活動の工夫

ポイント① 具体物を使うことで視覚に訴える。



小さいなあ

実践事例

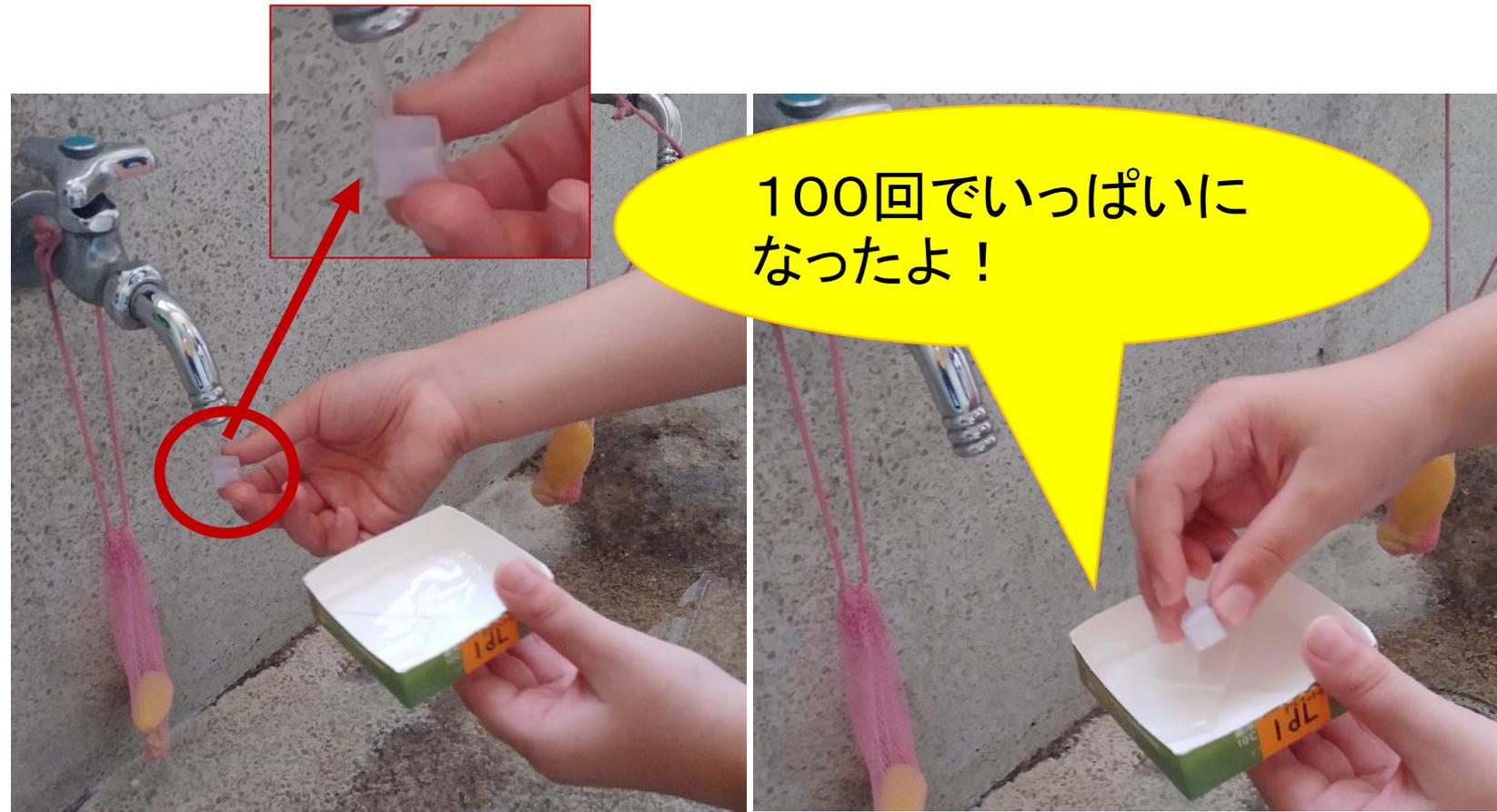
単元名「水のかさ」(2年生)～1ミリリットルってどれくらい?～

教材と活動の工夫

ポイント② 実際に水のかさを測る。

何回入れたらいっぱいになるの～
こんなの無理だよ!

100回でいっぱいになったよ!



実践事例

単元名「水のかさ」(2年生)～1ミリリットルってどれくらい?～

まとめと練習問題

(まとめ)

$$1\text{L}=1000\text{mL} \quad 1\text{dL}=100\text{mL}$$

(練習問題)

□にあてはまる数を書きましょう

① $1000\text{mL} = \square\text{L}$ ② $4\text{dL} = \square\text{mL}$

□にあてはまる>か<のしるしを書きましょう

① $1\text{L} \square 500\text{mL}$ ② $800\text{mL} \square 9\text{dL}$

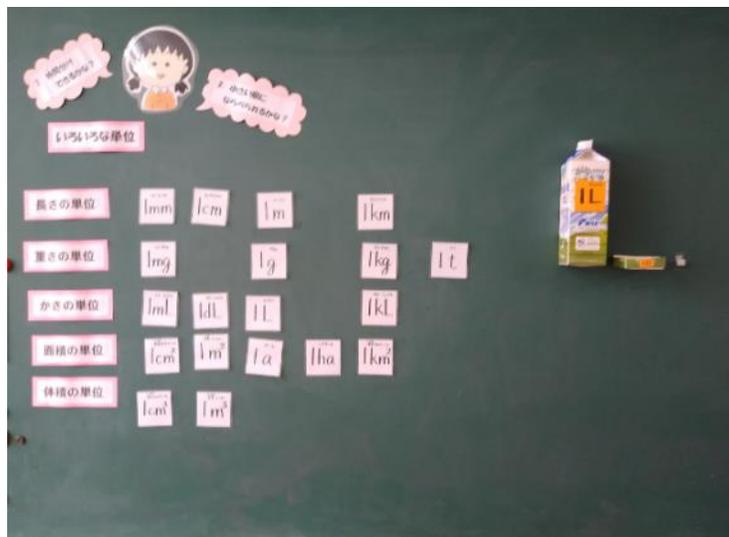
～は・・・と同じです
～は・・・より多いです。
(少ないです。)

実践事例

単元名「水のかさ」(2年生)～1ミリリットルってどれくらい?～

環境の工夫

- ① 実物を掲示し、常に目にすることができる環境をつくる。
- ② 子供が手に取っていつでも考えられるように、作った教材は教室に展示しておく。



実践の成果と今後の展望

実践の成果

- ① 可視化することで児童が学習に興味を持つことができた。
- ② 児童が体験することで学習の理解が進んだ。
- ③ ①②の経験から理解の定着度が増した。

今後の展望

今回の工夫を他の領域でも実践し成果を確認していく。

ご清聴ありがとうございました